



## 救える命を救うために ~救急車の適正利用にご協力を~

市川市の救急出動件数は平成23年に20,000件を超えて以来、毎年増加傾向にあり、令和3年は22,965件の救急要請がありました。この数字は、1日63件、23分に1回救急車が出動していることになります。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、救急車の病院交渉時間が長時間にわたる、救急搬送困難事案も多く発生しており、1件の救急活動時間も長時間化の傾向にあります。

急な病気や事故で、緊急に救急車を必要とする人の命を救うため、緊急性がなく、自分で病院に行ける場合や定期的な通院などは、公共交通機関などを利用していただくようご理解ご協力をお願いします。

### ただし、こんなときはためらわず119番! 判断に迷ったら電話相談

下記のように、重大な病気やけがが疑われる場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。

また、救急車を呼ぶか迷った時は「あんしんホットダイヤル」や「こども急病電話相談(#8000)などの電話相談窓口をご活用ください。



「電話相談窓口」についての詳細は2次元コードから市川市公式WEBサイトでご確認ください。

問い合わせ先

☎047-333-2111(音声ガイダンス2番)救急課



### こんなときは119! 重大な病気やけがの可能性あります!



### 24時間・無休の あんしんホットダイヤル 0120-241-596

言語・聴覚障害などの方専用 FAX 0120-637-119

通話料無料・市川市民専用・非通知設定では利用できません。



情報提供や相談ができる内容

- ・病院、診療所などの案内
- ・健康やメンタルヘルスの相談
- ・急な病気やけがの相談
- ・子育て、介護の相談など

## 寒い時期は特に、ヒートショックに注意しましょう!

冬の時期、暖かい部屋から寒い場所(風呂場やトイレ等)に移動したとき、脳卒中や心筋梗塞などを起こすおそれがあります。それには温度の急激な変化で血圧が急変することなどが原因で起こる「ヒートショック」が関係しています。

### ヒートショックとは?

急激な温度の変化によって血圧が上下に大きく変動することで起こり、心筋梗塞、脳卒中などを引き起こしたり、気温の下がる冬場に多く見られます。



### ヒートショックにならないためには?

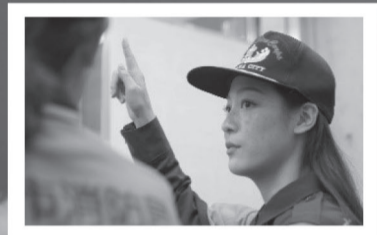
- ・脱衣所や浴室を温める ⇒ 寒暖差を少なくし急激な血圧の変化をさける
- ・お風呂の温度を低めに設定する ⇒ 湯温を41℃以下に設定する
- ・飲食後すぐの入浴を控える ⇒ お酒を飲んでいる場合は血圧が下がりやすくなります
- ・入浴前に水分をとる ⇒ 入浴すると汗をかき、体内の水分が減少することで脳梗塞や心筋梗塞のリスクが増加します

# ICHIKAWA CITY VOLUNTEER FIRE CORPS

世代や環境の異なる消防団員。それぞれの想いが交差する姿を映像に収めました。

市川市消防局ホームページにて

## 近日公開!



# CIVIC PRIDE

～自分たちの街への愛着と誇り～



【学生消防団】  
第6分団 団員 大木 海翔  
「自分にできることが必ずある。」



【男性消防団】  
第7分団 団員 大塚 龍之介  
「消防団でしか得られない経験がある。」



【女性消防団】  
団本部 団員 松丸 有希  
「かけがえのないものが見つかる場所。」

## 消防局PR動画公開中

市川市公式YouTubeチャンネルにて、消防局に配備されている様々な部隊の紹介動画を配信しています。各隊の活躍する姿を、ぜひご覧ください。



## 電気による火災予防対策について

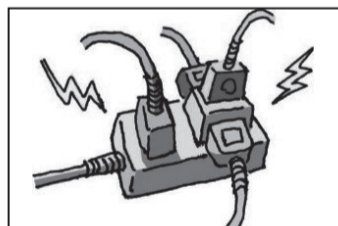
近年では、OA機器の普及や、生活スタイルの変化に伴い、電気に関する火災の発生件数が増加しています。

過去5年間の火災発生状況を見ると、電気に関するものは全体の約16%を占めております。

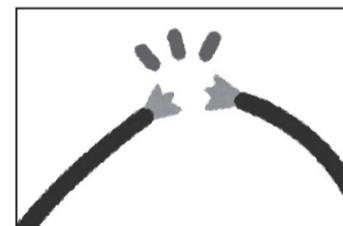
以下はおもな原因です。お宅は大丈夫ですか？

### 電気配線・器具

- ① 電源コードを束ねたり、タコ足配線で使用し出火するケース
- ② 電源コードを引っ張ったり、家具で踏みつけて断線して出火するケース



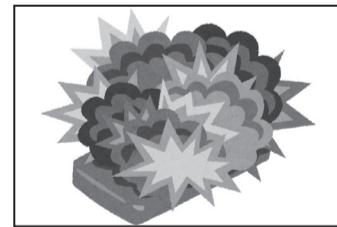
①タコ足配線



②断線

### 電気機器・装置

- ③ パソコンやスマートフォン等のバッテリーから出火するケース
- ※ バッテリーに限らず、使用中や充電中、異常に発熱したり、異音や異臭がした場合は、使用をやめましょう。



③バッテリーから出火

### 漏電

電源コードが傷ついたり、電気製品が水に濡れたりすると電気が漏れてしまうことがあります。近年市川市において、漏電による火災は少なくなっており、これは漏電遮断器が各家庭に普及しているからだと推測されます。

漏電遮断器を設置していないご家庭は、是非この機会に設置を検討してみたいかがでしょうか。

## 災害発生時は、むやみに移動せず落ち着いた行動を

大規模な災害が発生すると、公共交通機関が運行を停止し、自宅へ帰ることが困難になることが予想されます。

しかし、災害発生時に多くの人が一斉に徒歩で帰宅を始めると、火災や沿道の建物からの落下物などにより負傷する危険があるばかりでなく、災害時に優先されるべき救助・救急活動の妨げとなります。

- まずは自分の身の安全を確保しよう。
- 職場や集客施設等の安全な場所にとどまろう。
- 災害用伝言サービスにより家族の安否や自宅の無事を確かめよう。
- 交通情報や被害情報などを積極的に入手しよう。